

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス「湧気自然塾」		
○保護者評価実施期間	7年 2月 7日	～	7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	7年 2月 8日	～	7年 2月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	7年 3月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・理論に基づいたプログラムをもっていること ・集団の中で活動できるプログラムになっている ・スタッフが同じ方向で支援指導できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画・基本プログラム等をもとに、事業所オリジナルの個別プログラムを作成し、支援を行っている。 ・日々、当日の取組や一人一人の様子や学びについて、細かく記録をとり、振り返りや次回の支援の参考にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の打ち合わせ後、スタッフは必ず個人プログラムを読み込み、共通理解することを習慣化する。 ・また、前回の反省を踏まえ、共通の支援をするために自主的に意見交換をする。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・集団での療育を行っていること 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いがモデルとなり合えるよう、小グループづくりの工夫と配慮をしている。 ・良い手本を見ることで、よい行動が感化され、成功体験を積み要因となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、手本となり合えるような集団づくりを行う。 ・スタッフの誰もがスキルアップしていけるよう、事前に共通理解の場を設け、観察・実践する。失敗と思われる時は、他のスタッフが適切な支援をその場でを行い、スタッフ各自が自覚できるようにする。(即時プログラム有)
3	<ul style="list-style-type: none"> ・独自のプログラムの中に「地域の学び」があること 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の子どもは地域で育てる」スタンスで地域の方々が様々な体験活動を行ってくれている。ボランティアとの関わりは、日々のトレーニングの応用になり、また将来、地域の中で過ごしていく上で、良い繋がりができている。 ・地域ボランティアのローテーションや内容にも配慮してもら 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティアの来訪に留まらず、地域に出ていく機会を広げる。「昔語りの公演」や「作品展」への参加を続ける他、長期休業中を中心に、町内外の施設(B&G、山野草公園、ファーマーズ、各運動公園等)に出かける計画も積極的に行う。

	事業所の弱み(※) だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・広い空間でのトレーニングができないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・室内に2つの和室を合わせてフローリングのトレーニングルームをつくっているが、室外には、元々の設え上、広い空間がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・室内でできる運動の充実を図る。(リズムジャンプ等) ・戸外にある地域施設の活用を増やす。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・非常災害時(緊急時)の避難訓練をより充実させること 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は曜日によって異なるため、避難訓練週間として、取り組んでいるが、時間的な制約や出欠の関係から、利用者によっては限られた内容での訓練にとどまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バリエーションを広げる。(火事・地震・水害等) ・目的を持った訓練の各回数を増やし、利用者全員が様々な訓練にしっかりと参加できるよう計画する。 ・春～秋、これまで裸足の有効性から室内では上履きを脱いで活動してきたが、非常災害時に備え、常時、履物を履いておくよう、変更する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとってより魅力のある事業所となるため、面白いと思える環境づくりを行うこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間的な制約の中で、様々なトレーニングをしているが、全体の管理上、見守り易い場での活動に偏りがちになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の部屋の有効な活用を考える。 ・おもちゃ図書館から借りるおもちゃ・図書館から借りる本類・ボードゲーム等をさらに充実させる。 ・スタッフで安全な見守りに工夫を行う。 ・子ども達自身がトレーニング自体の充実感や成就感を得られるよう、配慮・工夫を意識して進める。